



実施者

＜教 員＞千葉大学大学院融合理工学府 デザイン文化計画研究室 教授 植田 憲、助教 青木 宏展、技術補佐員 高木 友貴

＜参加者＞千葉大学大学院融合理工学府 博士前期課程 2 年 王 一舟、王 中曄、張 淑怡、陳 祉佑、都 宥林、李 月
博士前期課程 1 年 沈 恵園

＜協働パートナー＞

【行 政】南房総市市民課、千葉県安房農業事務所、館山市立博物館（館山市）

【企業等】道の駅とみうら枇杷倶楽部、道の駅白浜野島崎

【個 人】戸部さかえ氏、高木豊氏（そらまめ生産者の方々）

1. 背景と目的

本研究は、2017 年から COC+（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）事業で実施してきた活動の一展開であり、南房総市の地域資源再発見・利活用により食文化の価値創出を図り、地域活性化を図るためのプロジェクトの一環である。近年、少子高齢化や地域過疎化等の影響により、生活のなかで創出・継承されてきた知恵の断絶が懸念されている。本研究の対象地域である千葉県南房総市白浜地区も例外ではなく、半農半漁を生業とする地域住民の生活に潜在する知恵が急速に消失しつつある。本研究は、現地調査で得られた知見に基づき、南房総市の白浜地区で生産されてきたそら豆のパッケージデザインを通して、地域内外の生活者へ南房総市の食文化を共有・発信することにより地域の活性化を図ることを目的としたものである。

一方、昨年度テーマである「万祝型紙のデジタルデータ活用に基づく職人支援」の継続として「万祝型紙のデジタルデータに基づく製品の活用」を設定し、市内拠点での販売や、記念品の制作を通して、地域内外において、地域の伝統的工芸である万祝の認識の深化を図ることを目的とする。

2. 実施内容

2.1. 白浜のそら豆パッケージデザイン

(1) 概要

昨年度テーマ「南房総市の資源再発見・利活用プロジェクト～白浜のそら豆文化」の成果として提案した白浜そら豆のパッケージを使用したそら豆の試験の販売を行い、購入者からの評価を得た。それら評価ならびにそら豆生産者からのヒヤリングを経て、パッケージの改良を行った。

(2) アンケート調査および評価

アンケート調査ならびに評価の概要は以下のとおりである。

・実施期間：2021 年 5 月 1 日および 5 月 2 日

・活動場所：道の駅・白浜野島崎

・回答者数：48 名

道の駅・白浜野島崎の近隣のそら豆畑にてそら豆を収穫し、生産者の方と共に梱包した。昨年度提案した色合いの異なる 4 種類のパッケージを用いて試験販売を行った（図 1）。そら豆を販売する他にも、本研究の活動期間および趣旨についての紹介用パネルを制作し、ブースの前に設置した。また、白浜の産地紹介やそら豆生産者が薦める料理レシピ等を記載した情報紙も用意し配布した。

アンケートの内容は提案したパッケージデザインの特徴的な部分を選別し、質問項目とした。回答者がアンケートボードに投票する際に貼付するシールの色を世代別に分けて用意し、10 代以下、10 代、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代以上の 7 種に分類した。そら豆の購入者や訪問客に本研究活動の趣旨とともにそら豆パッケージデザインの外観や構造等の特徴的な部分について説明したうえで回答してもらうとともに、追加情報としてコメントを得る方法で調査を実施した（図 2）。

(3) アンケート調査の結果

アンケート調査の結果は次の通りである。箱の外観のイラストデザインが計 20 票、テープが不要な箱の仕組みが 12 票、豆知識カードが 9 票、箱に載った白浜のそら豆産地紹介やレシピ等の情報共有が 7 票となった（図 3）。また、質問項目別年齢分布数においては、40 代と 20 代が最も多い割合を占めていた（図 4）。若い世代の場合、手軽に食べられる少量の箱を好む傾向がある



図 1. 使用したパッケージの一例（4 kg 用）



図 2. アンケート回収時の様子

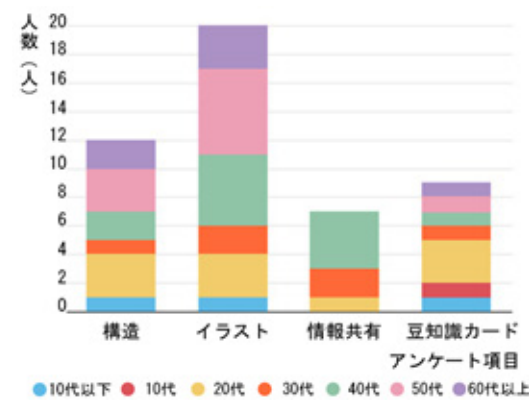


図 3. 年齢別の得票数

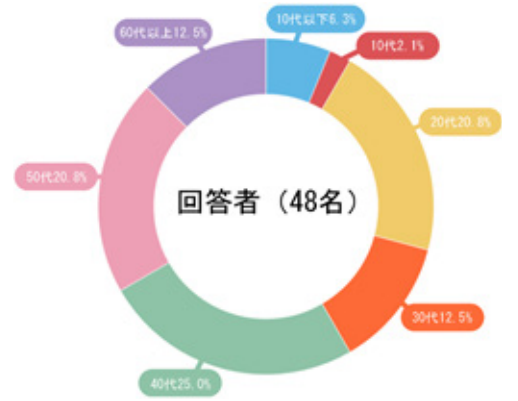


図 4. 回答者の年齢割合

域学協働の工夫！

- ★そらまめ生産者である高木氏にご協力いただき、実際の販売場所である道の駅白浜野島崎にて、そらまめのパッケージの評価を実施したことで、購入者の意見を直接うかがうことができた。
- ★そらまめ生産者である戸部氏の意見を直接うかがうことで、パッケージの利用者からの生の意見を直接うかがうことができた。
- ★市民課の職員の方に道の駅とみうら枇杷倶楽部をご紹介いただいたことにより、スムーズにグッズ販売の体制が構築できた。
- ★市民課の職員の方から直接新成人に向けた「万祝クリアファイル制作」のご提案をいただいたことにより、新たな万祝型紙のデジタルデータの活用方法を検討できた。また、これまでの本学の取り組みをご理解いただいたうえでの提案であることから、連携体制がより強固なものとなっていると実感した。

ことが確認された。20 ～ 30 代の親子連れの場合、もともとそら豆を購入する予定はなかったが、子どもがそら豆のパッケージデザインに関心を持ち、イラストが可愛いらしく、豆知識カードが欲しいという理由で実際の購入につながる事例がみられた。若い世代は調理法をよく知らないため購入しない場合が多く、普段もそら豆を買うことは少ないという聞き取りも得られた。今後、現地の調査で明らかとなった調理法等を詳細に共有することで、若い世代のそら豆に対する関心を喚起することができると考えられる。また、産地紹介とレシピ等の情報共有については「白浜に住んでいるがこんな情報は知らなかった。白浜についてもっと分かるようになって良い」「そら豆を煮て食べる以外にもいろいろなレシピがあることに驚いた。面白い」といった好意的な意見が聞かれた。

(4) 試験販売の報告

・実施日 2021 年 11 月 09 日

・活動場所：白浜コミュニティーセンター

アンケート調査の結果とパッケージデザインについて購入者・地域内外の住民から得られたコメントを共有した。試作販売で確認された箱の構造の改選すべき部分について、そら豆生産者からのフィードバックを得た。また、今後の展開についてもアイデアを共有した。

(5) パッケージのデザイン修正

調査ならびにフィードバックより、以下の修正を行った。

- ①テープ不要なデザイン：箱の構造の修正とともに、箱に乗せるグラフィックイメージや情報等をスタンプで押せるよう改良を計った。これにより、箱の廃棄物を減らせるよう工夫をおこなった（図 5 ～ 7）。
- ②産地紹介、当地域で栽培されるそら豆の特徴やそら豆生産者が薦めるレシピのまとめと共有：梱包箱外部のイラストや産地、レシピ紹介の内容を改めて整理し、箱に記載するだけでなく二次元コードからウェブサイトへ誘導する仕様とし、最新の情報の共有も可能とした（図 8）。

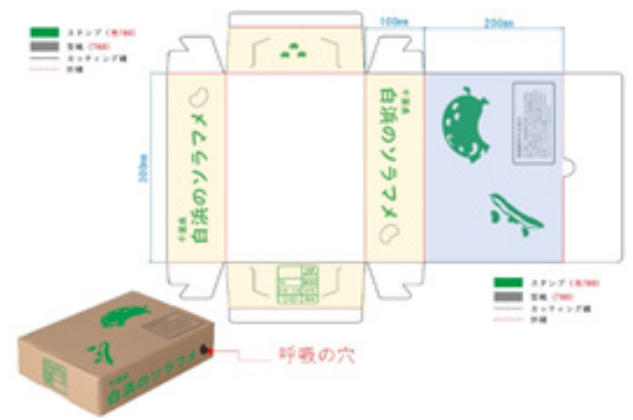


図 5. 改良したパッケージの展開図



図 7. スタンプによるパッケージの試作



図 6. スタンプの展開



図 8. 産地詳細、レシピ等を紹介するウェブサイト



図 10. 新成人に配布した万祝クリアファイル

2.2. 万祝型紙のデジタルデータによる製品の活用

(1) 道の駅とみうら枇杷倶楽部におけるサコッシュ・クリアファイルの販売

これまでの南房総市のプロジェクト内で提案してきた万祝型紙のデジタルデータを活用したサコッシュ 4 種およびクリアファイル 2 種について、2021 年 11 月より道の駅とみうら枇杷倶楽部で販売を開始した（図 9）。なお、これらのサコッシュ・クリアファイル双方には万祝に関する説明文を同封し、購入者が万祝への理解を深めてもらう仕様としている。なおサコッシュについては、大学内の保有する UV プリンター（Roland D.G./LEF-12、立体物への印刷が可能なプリンター）を使用し、1 点 1 点学生らにより制作を行っている。本取り組みは東京新聞ならびに房日新聞に掲載いただいたこともあり、翌月には初回納品分は完売し、追加納品を行うことになるなど、好評をいただいている。今後については、その他の市内の道の駅への販路拡大なども模索しつつ、各道の駅に応じたグッズの開発などが考えられる。上述の通り、サコッシュは学内にて 1 点より製作が可能であることから、少量多品種の生産が可能である。また、将来的にはこれらの制作を市内事業者に委託し、市内関係者で生産・販売が行えるような体制を構築していきたいと考えている。

(2) 市内新成人のためのオリジナル万祝クリアファイルの提供

市内の新成人のためのオリジナル万祝クリアファイルを制作・提供した（図 10）。これまでに取得・収集してきた万祝デジタルデータの中から、いまだデザイン提案等で活用しておらず、万祝の特徴がよくわかる図柄を選定し、彩色を施し、新たなデザイン展開を行った。なお、彩色は、文献資料から過去の作例を概観し、

それらを参考にしつつ、デジタルデータ上で行った。万祝はもともと大漁を祝う際に着用される祝着であることもあり、その図柄には鶴や亀、松竹梅をはじめ日本における普遍的な祝いの意匠が確認できる。元来の用途とは異なるものの、成人というめでたき日を、地域由来の祝いの造形で演出することができたと考える。また、本クリアファイル内にも上述（1）と同様に、万祝に関する説明紙を同封している。これを機に地域を担う若者たちが万祝についての認識を深めてもらうことにも寄与できたと考える。来年度以降についても、引き続き実施を検討したい。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

そら豆の情報等、地域の魅力を発信・共有するための一手法としてのパッケージの評価を行った。また、そらまめ生産者の抱える課題に対し、昨年度よりもより具体的な解決策を提示するとともに、地域の生活者らとの連携体制がより強固なものとなった。また、万祝 PJ については安房地域が誇る伝統的工芸である万祝について、その認知向上のための手段として、グッズの販売を行動に移すことができた。また、新成人向けのクリアファイル製作については、万祝の型紙デジタルデータ活用の新たな地域内での活用方法を見出すことができた。今後、継続的に実施することにより、より地域内での万祝への再評価に寄与できると考える。

(2) 教育・研究面

実際に現地に赴き、地域の生活者らと協働しながら、自身らの考案・制作したデザインについての評価を直接受けることができた。評価を経て、よりパッケージの具体化を進展させることが

できた。また、パッケージの試作には、レーザーカッター等本学保有のデジタル造形機を使用した。本取り組みを通じて、それら機材の活用方法を体得することができた。万祝 PJ においては、重要な地域資源であるの活用方法を検討・提案し、地域活性化に資する新たな活用方法を見出すことができた。

3. 今後の展開

白浜そら豆 PJ については、本年度の評価を経て、さらなる改良を加えた。来年度については、改良したものを活用し、実際にそれらを活用していきたい。万祝 PJ については、引き続きデジタルデータの取得ならびに活用を展開予定である。



図 9. とみうら枇杷倶楽部でのグッズ販売

*表彰・マスコミ掲載など

○学会発表

1. 張淑怡、王一舟、陳祉佑、都宥林、王中暉、李月、涂肖、青木宏展、植田憲：地域活性化に寄与するそらまめのパッケージデザイン千葉県南房総市白浜地区を対象に、日本デザイン学会第 68 回春季研究発表大会（新潟）、2021.6 ※発表済み、概要集が未完成につき未掲載。
2. 都宥林、張淑怡、王一舟、陳祉佑、青木宏展、植田憲：地域の食文化の活性化に資する農産物のパッケージデザイン 千葉県南房総市白浜地区における特産物・そら豆を対象に一、アジアデザイン文化学会研究発表概要論文集第 2 巻、pp.93-96、2021.10

○新聞掲載

3. 『千葉大学が製作の万祝グッズ販売 南房総市と連携で』、東京新聞、2021 年 11 月 28 日
4. 『千葉大生が万祝グッズ 南房総とみうら枇杷倶楽部で販売』、房日新聞、1、2021 年 12 月 12 日
5. 『万祝柄クリアファイル配布 千葉大生製作新成人に限定デザインで』、房日新聞、1、2022 年 1 月 28 日